

目指す学校像

- (1)生徒たちが、挑戦し、応援し、貢献する中瀬中
 (2)生徒たちが、心のハーモニーを響かせる中瀬中
 (3)生徒たちが、「苦しいことも多かった。楽しいことよりもつらいことの方が多かった。でもこの中学校で良かった。この仲間と一緒に良かった。」と、言える中瀬中
 (4)地域に育てられ、地域のために、地域とともに歩む中瀬中
 (5)教育公務員として誇りをもち、組織として課題に取り組む中瀬中

(1)～(3)が生徒主体の
イメージ

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、「知・徳・体」の調和がとれた教育活動を推進し、生涯にわたり学ぶ意欲と態度を培い、社会に貢献できる人間の育成を目指し、以下の教育目標を掲げる。

- ・自ら学び、考え、進んで行動する人
- ・互いを尊重し、協力する人
- ・心身ともにたくましく健康な人

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

本校は下記アイウを基本に、生徒が「～させられる」学校から、生徒が「～する」学校に進化することで、生徒たちの「深く考える力」「他者とつながり多様な個性や考え方から学ぶ力」「仲間と共に課題を解決する力」「夢に向かって自らの道を切り拓く力」を、地域と共に育てていく。さらにそのことを通して、子どもの生きる力を育む地域の文化に寄与する。また取組の実施に当たり、学校支援本部や地域社会と連携し、専門のファシリテータを活用し、土曜授業を含む教育活動を行う。

ア 教員が「勉強させる」⇒ 生徒が「学び、探求する」

学習を授業時間にとどまらせらず、自分から疑問をもち、深く学習していく姿勢を育て、学びの個性化を図る。そのため「生徒の主体的な学びを促す問いかけ」「生徒の学びを深める話合い」をテーマに、学びの構造転換を進める。

イ 教員が「ルールを守らせる」⇒ 生徒が「ルールを含め学校をつくる」

中瀬生徒憲章に基づき、生徒が自分たちで課題をみつけ、仲間と共に解決しようとする自治力を育てる。そのため、標準服の改訂を機に、服装の着こなしのルールを生徒が発案するなどの取組を進める。また体育大会などの行事の参加形態や運営も、生徒主体を基本とする。

ウ 教員が「正しい善いを教える」⇒ 生徒が「考え、議論し、実践する」

社会に対する視野と見識を培い、自分事としてより良い社会をつくろうとする姿勢を育てる。そのため、生徒一人一人が社会的課題を見つけ（SDGs）、課題別に異学年小集団のグループワークを行い、当事者として課題を追求し、解決策を拿出し実践を目指す。

<現在の中瀬中の課題>

生徒の多くが安心して主体的に生活し、学習や活動に成果を上げている“良い状態”にあるが

- ① 生徒同士の働きかけは弱く、依存心や、期待の裏返しの不満が見られる。生徒が自ら選択し切り拓いてきた、というより“与えられた良い状態”。
- ② 地域や世界への関心が低く（-5%）、学習と生活・人生が分離（-8%）。受け身で内向き。（杉並区教育調査の平均と比較）

ア、学習者主体
「授業から学びへ」
※学びの構造転換
教科



イ、生活者主体
「向き合い、認め合い、考えて、輝け！」
特別活動

ウ、当事者主体
「異学年小グループの
PBL（問題解決型学習）」
総合（道徳）

Renewal!
スポット・一斉
↓
シリーズ・選択

[補足] 中瀬中の特色

- 70周年により中瀬中の伝統（合唱、部活、ビオトープ、SO、中瀬検定・エンカウンター…）を確認することができた。 ←学校支援本部「結」を軸とした地域に支えられている
 - +異学年のワークショップ（道徳・総合…ファシリテータの活用、生徒会活動）
 - +合理的配慮（個別支援）は標準（当たり前）
 - +生徒主体の行事、生徒会活動⇒中瀬生の目指すところを明文化した『中瀬生徒憲章』

【指導の重点の具体化】

(1) 基本方針ア「学びの構造転換」…6/15, 7/13(連携小中), 10/19, 1/20(研究発表会)に公開合同研修

- 管理職と養護教諭を除く中瀬中学校の全教員が実践授業動画報告 **↑2年間のまとめ**
- 参加者と発表者全員で協議（中瀬中2名+参加者で12～14教室に分かれてグループワーク）
- テーマは、アの「…問い合わせ」「…話し合い」が共通（+個人別テーマ）。

(2) 基本方針イ ○中瀬生徒憲章を全ての基本 「個人の“趣味”ではなく、皆で目指す“中瀬生らしさ”」

標準服改訂のロードマップ <新校舎でのR7年度卒業式は新標準服>

- R3夏休に「私服・制服」の生徒の意見をロイロノートで集約 → ・生徒会本部で、パネルディスカッションビデオ作成 → ・10/16に、本部役員主催で学年混合グループワーク、ロイロで集約。標準服改訂の方針決定 → ・12月既成の標準服展示、意見集約、メーカーに提示 → ・3/5近隣小保護者参加の業者プレゼンと投票、3候補に絞る
[以下予定]◆5月上旬までに生徒の投票で1つに絞り、業者決定 → ◆エンブレムを生徒から募集、学校と業者で仕様詳細を詰める → ◆9月下旬の新入生保護者会で披露

これを機に『標準服の着こなし方』を生徒が話し合い、ルールを発議。（タブレットの使い方を下敷きに）

※「靴下の黒を認めてください」は× ⇒ 自分たちで、中瀬生としての着こなしを定め、お互いに働きかける
「ルールは中瀬中の理想の実現を目指すものであり（中瀬生徒憲章より）」

(3) 基本方針ウ 生徒たちが10年後20年後に今より良い地域・日本・世界を作っていくことがイメージ

スタートは、6月の予定。進路学習部・ファシリテータで連携して、副校長が統括。

◆今年度は助走。3年生が進行管理（前期）。1年生はお試し期間。2年生からが本番、のイメージ。

(4) 新型コロナ感染症対策 ○ソーシャルディスタンスは現実的でない。

1. **換気の徹底** 2. マスク 3. 食事前、部活前後の手洗い 3. 自分の物、場所以外は触らない。
何人かで使う物は消毒←プリントを配布する人は消毒してから 2, 3は教員・生徒の意識付け
※ゴミ箱は置かない。牛乳パックのリサイクルもまだ行わない。

◆今年度は体育大会、修学旅行など予定通りで行う。そのためには**校内で感染を広げない**ことが重要

(5) 道徳 ○評価を気にするより『考える、議論に値する』道徳の充実を！ 生徒が教員を見答を探すのはX

教科書を計画的に使い、生徒の振り返りをもとに前・後期の2回、評価を行う。（京都市の資料参照）

※1学期の内容で、夏休み中に前期評価→管理職。2学期の内容で、冬休み中に後期評価→管理職。

(6) ICT ○ペーパレスで消耗品代を節約。生徒の活動にロイロノートをどんどん活用！ 生徒のお助け係も

- ①授業プリント→ロイロノートの資料箱、②しおり等は、ロイロノートで配布、③保護者配布資料→シェアポイント
◆欠席していても、授業を配信・授業プリントに記入してロイロノート（写真でもPDFでも）で提出。
- ④タブレットの学びポケットから、イーポード（アニメ解説、問）、ナビマ（AI仕様の問）、マイシートを利用

(7) 評定 ○登校渋り、特性、病気やケガなど、個別の対応が必要なケースが多いので原則を明示

評価材料が50%以上ある観点→評価。ない場合は評価しない（記載するときは／）が原則。→評定

◆以上を原則とし、保護者の申し出で、個別に相談に応じ対応（要：管理職）

※登校渋りの生徒の副教材購入は、以上のことを説明し、購入の有無を確認！

(8) 特別支援 ○一人一人の**特性**に応じた支援。「特別扱いは不公平」という感覚は、もう通用しない

- 自分から周囲に理解と支援を求める力、お互いの違いを認め合い、共に学び、共に支え合う力を育てる。
- ◆個別支援検討委員会（校内委員会）…支援内容と方法を検討。個別指導計画作成。検証と計画改善。
- ◆学びの教室（特別支援）に通わされているX → 自分で考え選び「苦手克服しよう」と挑戦O

(9) 教育相談 ○他者との関わりの中で豊かな人間関係の構築できる生徒。心(自信・自尊感情)。

できないことを叱る×→努力したことを認める。生徒が挑戦できるようアドバイスなどの支援。

◆生徒理解の軸 ・カウンセラーとの連携(1年全員面接) ・構成的エンカウンター、QU ⇒ 学級経営

(10) 部活動 ○持続可能な活動

・平日4時には部活動を開始し6時終了、6時10分には完全下校を徹底する。

・ガイドラインの順守…土日のどちらかは休み、平日の1日は休み。

※大会などの場合は、管理職に相談。(土日活動なら、平日に振り替えて休み)

◆保護者にも周知します

<その他>

① 豊かな国際感覚を身に付けるため、国際理解教育の質的な充実を図り、相手の意図・考え方を的確に理解し、積極的にコミュニケーションする姿勢を育てる。その一環として、日本在住の外国人を招き「中瀬国際交流デー」を実施する。

② 環境に対する感受性を培い、自分たちとの生活とのかかわりについて理解を深め、環境の保全と創造に関する課題を発見し、責任ある行動がとれる姿勢を育てる。その一環として「科学と自然の散歩みち」の整備と美化や、フードドライブを実施する。

③ 保護者や学校支援本部など地域と連携し、土曜授業を含む教育活動を推進する。その一環としてレスキュー隊などのボランティア活動、英検や漢検、中瀬言葉の検定などを実施する。

④ **保健体育科の【12分間走】をモデル** (“速い・遅い” の尺度ではなく生徒が自分の走りを考え、ペースを決め、対等な関係でペアと助け合いながら、挑戦する) にした学習を工夫し、実践する。

⑤ **学校司書・学校図書館**を活用し教科の単元の中で調べ学習を行い、自ら探究する姿勢を養う。また毎日10分間の朝読書を、学校司書の相談機能を活用して実施する。**教員も本を読もう！**

⑥ **キャリア教育**～社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等について現実的に調べ考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を養う～を、学校支援本部・ファシリテータとの連携で行う。

・1年職業調べ…お仕事見本市(結)

・2年職場体験…1、社会保険労務士による学習、2、マナー講習、3、職業人とのワークショップで振り返り

⑦ 障害の特性や障害のある人の立場を理解し、互いに学び合い、共により良く生活するための方法を考え行動できるようにするため、SO (スペシャルオリンピックス) アスリートとの交流などを実施する。

⑧ **学級や学校での生活をより良くするための課題を見い出し、解決に向け話し合い、合意を形成し協力して実践できる生徒を育成**する。その一環としていじめ問題に取り組む。

←話し合いの基本 (中瀬ルール) を徹底する

↔ 1、全員が発言する

2、最後まで話を聞く

3、馬鹿にしたり笑ったりしない

4、プラスのフィードバックをする

5、じゃんけんや多数決で決めない

←生徒の自治力を伸ばす生徒会活動

ア、第3学年の生徒が高い母校意識をもち行事や日常生活で学校をリードし、第1、2学年の生徒がその姿を手本として取り組めるようにする

イ、委員会活動、部活動を通して小学生と関わることで小中一貫教育を推進する。

←挨拶運動、図書委員会の小1読み聞かせ、ビオトープ委員会の小4チェックシート

←杉並小中学生未来サミット、環境サミットでの連携

<学校運営に関するこ>

① 教育課程の確実な実施

ア 45分授業は行わない。

イ 各教科でクラス毎に実施時間の差が出ないよう、時数の進行管理を行う。

○ 定期考査の段階で、学級毎の実施時数の差が、おおむね各教科の週当たりの時数以下になるよう予め調整を行う。

② 文書による起案と事案決定の流れを確実なものにし、責任体制を明確にする。

○取組の後に振り返りを集約し、次の取組に活かす。大きな変更などについては、学校内評価の項目とし、検討する。

③ 人権に配慮し、体罰やいじめの放置、個人情報の紛失などの信用失墜行為が無いようにし、場面に応じた言葉遣いや服装など教育公務員としての品位を保つ。

④ 家庭や地域への、誠実で迅速、明快な対応を心がける。

⑤ 公費会計・私費会計について適正な事務処理を行う。

○発注から起案文書による管理職の決済を行う。同文書で納品・確認を行い記録に残す。

○私費会計については各学期末に学校事務立会いのもと、帳簿と通帳残高の照合などの確認を行い、管理職に報告する。

○部活動会計については、原則として金銭の管理・会計監査を保護者に委託する。

※できない場合はあらかじめ管理職に報告・相談する。また学校事務による会計監査を行う。

⑥ 従来の指導方法に固執せず、発想を転換し、新しい指導を模索・工夫し実践する。

中瀬生徒憲章

私たちは、中瀬中生徒会の一員であることを自覚し、私たちとこれからの時代の後輩のために、生徒主体の中瀬中を作っていくことを決意し、理想の生徒像「向き合い、認め合い、考えて、輝け！」を目指して努力し続けることを、ここに宣言し、この中瀬生徒憲章を確定する。

自分自身を見つめ、他人と向き合う。相手に関心をもち、知る努力をすることで、互いの個性を尊重し、認め合っていく。自治を行うため、生徒全員で話し合って決めたルールについて、その意義に向き合い、守ることを確認する。またそのルールは、中瀬中の理想の実現を目指すものであり、少ないルールの中で生徒がよく考え自己判断して行動できるのが中瀬中の自由だと信ずる。

私たちは、どんな中瀬中でありたいのか、そのためにはどんな行動をとるべきなのかを深く考えていく。中瀬中は、全員が自らの意志によって個性を発揮することで、初めて学校全体で輝くのであって、誰かが犠牲になってはならない。私たちは、自分の行い、考えを発信していくことにより、生徒同士で互いに高めあっていける、和の中の自立を目指す。

私たちは、自分達のことのみに専念してはならない。地域の関わりの中で、中瀬中がどう見られているのかを考える必要がある。あってよかったと思われる中瀬、礼儀正しい中瀬を継承していく責務があると信ずる。

私たちの価値を決めるのは、能力でも性格でもなく、まして経済力や容姿ではない。私たちは、自分と違う人や文化を認め、そこから学び、自分の苦手なことや課題に勇気をもって挑戦していく。そんな姿勢でお互いを尊敬しあえる中瀬中、そして社会をみんなで目指していく。